当院における意識障害の患者に対する脳波検査の実態

脳神経内科常勤医着任を受けてみえてきた問題点

◎今坂 久美[1)]、中村 勇治[1)]、増田 智子[1)]、松本 俊一[1)]、樋口 武史[1)]
彦根市立病院臨床検査科[1)]

[はじめに]意識障害の原因の 1 つであるてんかん重積状態は迅速かつ適切に処置を行わなければ致死的もしくは重篤な後遺症を残しうる中枢性の救急病態である。当院は脳神経内科常勤医 2 名が着任する 2023 年 4 月以前は、脳波を専門外とする医師から意識障害の脳波検査の依頼があることも少なくなかった。今回我々は脳神経内科常勤医が着任する前後の当院における意識障害の患者に対する脳波検査について実態を把握すべく、臨床検査技師の目線から依頼検査数、依頼科の割合、脳波検査中に発作や重積状態が検出された検査数などについて後ろ向きに調査を行った。

[方法]2018 年 10 月～2023 年 9 月の過去 5 年間の意識障害の脳波検査で常勤医着任前後の検査数および依頼科の割合などを比較した。意識障害の基準は Japan coma scale (JCS) を用いて JCS≧2 とし、意識変容を生じている場合は JCS1 も対象に含めた。発作や重積状態の判断は 2021 年版アメリカ臨床神経生理学会のガイドラインを用いた。尚、検査の記録時間は 30 分である。

[結果]常勤医着任以前は総依頼検査数 1240 件に対し意識障害の件数は 291 件、常勤医着任後は 182 件に対し 45 件であった。依頼科の割合は常勤医着任以前では脳神経外科 (46%) が最も多く、次いで脳神経内科 (26%)、循環器内科 (11%) などであった。常勤医着任後は脳神経内科 (76%) が最も多く、次いで循環器内科 (9%)、消化器内科 (7%) などであった。また検査中に発作や重積状態が検出された検査数は 24 件であった。その内、専門医による脳波判読までに 1 日以上経過していた件数は 7 件あり、依頼科は脳神経外科 (5 件)、脳神経内科 (1 件) および循環器内科 (1 件) で、すべて常勤医着任以前の症例だった。

[考察]当院ではおよそ 4 人に 1 人が意識障害の患者であり、常勤医着任前後で差はなかった。また常勤医着任以前では依頼科は脳神経外科が最も多く、検査中に発作や重積状態が検出されても専門医へ対診が遅れた症例があった。その要因の 1 つとして、専門医とコミュニケーションが取りづらい環境だったことによる専門医との連携不足が考えられた。特に専門外の医師から依頼される緊急脳波検査では、検査者が異常を迅速に医師へ報告することが患者の早期治療につながる。医師と積極的にコミュニケーションを取ること、また他施設とも情報を共有することが重要であると考える。連絡先：0749-22-6050 (内線 1740)